

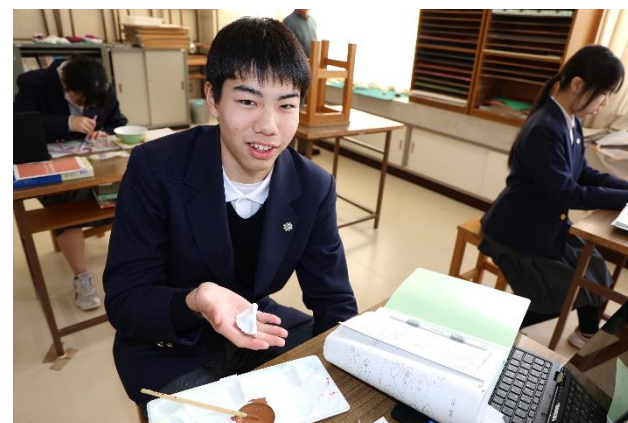
和の光

宝塚市立西谷中学校



■仲間と共に学ぶ楽しさ～季節を感じる和菓子のデザイン（3年生・美術）～

3年生美術の授業を見学に行きました。粘土を使って和菓子作りに取り組んでいました。「校長先生、これを見てください」とAさんが「小さな葉」を見せてくれました。一つ一つの葉には葉脈が刻まれています。BさんとCさんも同様に細かなパーツを手作業で作っていました。みんなとても器用です。みんなの作品の完成を楽しみにしています。（1月17日）



美味しそうなお菓子ができました



細かな葉を作りました



和菓子づくり最高です！！



パソコンも使ってデザインします



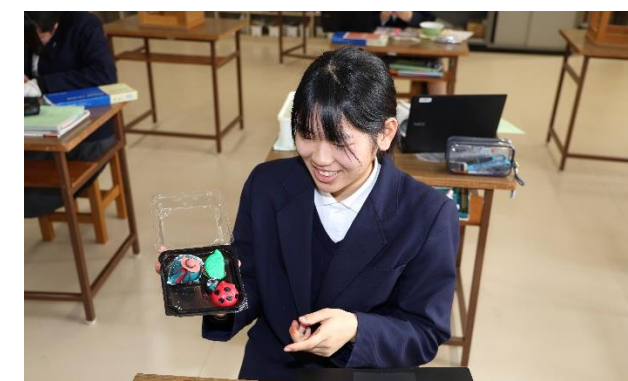
さらに細かな作業をしています



さつま芋の和菓子ができました



とても可愛い作品です

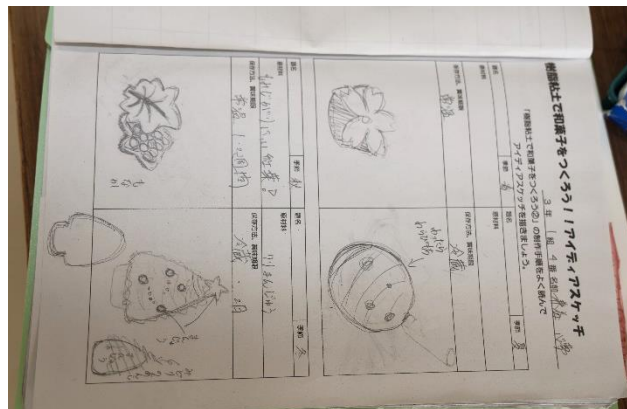


和菓子セット・てんとう虫もいます





ナイフ・おろし金を器用に使います



綺麗な球体に仕上げました



黙々と作業に取り組みます



最後まで丁寧に仕上げます



関先生にアドバイスをもらいます



和菓子づくり楽しいです



全神経を集中させます

交響楽

谷川 俊太郎

ヴァイオリンを弾いてる人は
おでこに汗をかいているというのに
シンバルを鳴らす人は
もうずいぶん長い間待っているようだ
音楽堂の外では
ぶなの樹が西風と響きあう
いたずら小僧たちが迷子の仔犬と響きあう
一人の青年が一人の娘と響きあう
オーケストラはそれらすべてを歌っている
だから私も知るのだ
この世で
私に無縁なものは何ひとつない
私もまた目に見えぬシンフォニイの
選ばれた奏者のひとりなのだ
ホルンを吹く人のほっぺたが
りんごのように丸くふくらむ
いまオーケストラはその大きなので
世界じゅうを歌っている



私は学校通信「和の光」で、様々な人の手記やメッセージ、詩を紹介していますが、その理由は「多感な時期の中学生の皆さんに、これを通して多様なものの見方や考え方を持ってもらいたい」という思いがあるからです。

今回は私の好きな詩人の一人、谷川俊太郎さんの「交響楽」を紹介します。西谷中の皆さんはこの詩を読んで何を感じますか？ 一度ではなく、二度・三度と繰り返して読んでみてください。読み込むにつれて、詩に込められた思いを感じたり、世界観が広がるような感じがしたりと、心地よい気持ちになりませんか？

西谷中の皆さんには、人生で一度しかない多感なこの時期にこそ、文字に触れる機会を積極的につくって、さらに感性に磨きをかけてもらいたいと願っています。

校長 筒井 啓介